

一年課程（専攻科）における形態別介護技術の展開方法

山下 恵子
Keiko YAMASITA

尾台 安子
Yasuko ODAI

1. はじめに

介護福祉士の登録者数は、資格制度創設後順調に増加し、平成11年1月現在約13万2千人となっている。養成施設卒業生の就業先を見ると、施設などが中心であるが、今後在宅サービスにおいても活躍の場が期待されている。また、平成12年度から介護保険制度が実施されることに伴い介護福祉士には、他の保健医療福祉従事者との一層の連携や介護サービスの実施など新たな役割が求められる。このような状況を踏まえ、介護福祉士教育課程の見直され、平成12年度からのカリキュラム改正に至った。

一年課程では、保育士に必要な福祉の基盤は学んできているが、介護に関する専門科目を1年で学ばなければならない。しかも、8週間の実習を組み入れ、効果的な実習にしていくためには、各専門科目の授業内容の検討、進捗状況の検討をする必要がある。

従来の障害形態別介護技術は、主として知識面に重点が置かれ、実習内容が明確ではなかった。この教科を担当するにあたって、何をどこまで教授すべきなのかは悩みの種であった。

今回のカリキュラム改正に伴い、1年課程のカリキュラムも、「老人福祉論」・「介護技術」・「障害形態別介護技術」でそれぞれ30時間増加された。また、「障害形態別介護技術」が「形態別介護技術」という名称変更が行われた。人間を障害の面からとらえるのではなく人間を幅広くとらえていく必要がある。さらに、2年課程では現行カリキュラムにおいても「医学一般」は60時間あり、改正では90時間となった。しかし、1年課程においては「医学一般」が入らなかった。幼児教育課程のカリキュラムを見ても医学的な知識を学ぶ科目は「小児保健」くらいである。(表1) また、昨年度の介護福祉士養成校卒業生に対するアンケート調査結果において、「在学中もっと勉強すれば良かったと思う教科」として68.8%の学生が「医学一般」をあげている。

そこで一年課程では、医学的な知識である身体のしくみや働き・各障害の現れる疾患や症状の理解をふまえて形態別介護技術を習得させる必要がある。また、介護概論や介護技術との重複はできるだけ避け、形態別介護技術は独立した技術の一つと位置づけ展開方法を考え、習得すべき技術を明らかにしたのでここに報告する。

表1 各課程での形態別介護技術との関連科目

1. 幼児教育課程での福祉系関連科目

科目名	単位数など	講義・演習内容
社会福祉Ⅰ	講・2・必	社会福祉とは何か。社会福祉の実態と問題点など
社会福祉Ⅱ	演・2・保必	社会福祉援助技術(ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークなど)
児童福祉	講・2・必	児童福祉法に基づく保育等の考え方など
精神保健	講・2・保必	精神保健行政の概要・精神障害の基礎知識・ライフサイクルにおける精神保健など
障害児保育	講・2・選	障害児・者の処遇の歴史など
養護原理	講・2・保必	児童福祉施設の現況や児童の状況、今日的課題など
養護原理Ⅱ	講・2・選	児童養護施設における日常生活養護
小児保健B	演・1・保必	小児の健康状態の観察技術、養護についてなど

2. 専攻科での形態別介護技術と関連のある科目

科目名	単位数など	講義・演習内容
介護概論	講・4・必	介護の概念・展開・対象など介護の全般的な理解など
介護技術	演・4・必	日常生活援助技術(清潔・排泄など)、観察、在宅介護技術など
老人福祉論	講・4・必	介護福祉士に必要な高齢者問題の把握方法、高齢者福祉施策の特徴、高齢者福祉制度の現状社会福祉援助技術など
障害者福祉論	講・2・選	障害者福祉の現状と問題および今後の課題など
障害児保育特講	講・2・選	障害児を持つ親に対する支援、障害児を保育する視点など
リハビリテーション論	講・2・必	リハビリテーションの定義・リハビリテーションの各分野と実施体制・リハビリテーション計画など
老人・障害者の心理	講・2・必	老化や障害が人間の心理に与える影響や心理的特性など
臨床心理学特講	講・2・選	臨床心理学の基礎知識の実生活への活用など
家政学概論	講・2・必	家庭生活の意義・経営管理、食生活・被服生活・住生活の意義など
家政学実習	実・2・必	老人・障害者の家庭生活に必要な実践的経営・管理など
在宅ケア論	講・2・選	在宅でのケアの実際や応用など
家族福祉論	講・1・選	少子高齢化における家族と社会福祉の諸問題や家族機能の変化の中での家族員個々の自立のために社会福祉の果たす役割など
手話・点字	演・1・選	手話の実際、点字の実際演習

2. 形態別介護技術の基本的な考え方

今回のカリキュラム改正で注目する言葉として、「修得」が「習得」に変わった。このねらいは、今までは単に理解できれば良いとしていたものが技術を会得することに重点がおかれたと理解する。このことは老人・障害者の特性に応じた知識・技術を、具体的な事例による演習を多く取り入れ、対応技術を習得させる必要がある。しかし、演習を通してどのような技術を習得させるかが明らかにされていない。この演習の部分を明確にして技術として体系化していくことが今後の課題である。また、本学科においては、「医学一般」の科目を起すことも考えたが、四月からの同時スタートでは医学的知識と形態別介護技術の授業とは関連がつけにくい。そこであえてその部分を形態別介護技術の中で補うことにした。そのために、従来の手話・点字は別枠とし、選択科目とした。これらのことをふまえて、他の専門科目との関連性と重複を避けるために内容を整理してみた。

そこで、医学的な知識を補うために、まず身体機能と障害を関連付けさせながら基礎知識の習得を図る。そして機能障害によって引き起こされる生活上の問題を明確にする。さらに演習を通して対応方法を学ばせる。そこで、あえて機能形態別の“形”を取って「機能別」に展開し、各単元において習得すべき形態別介護技術を明確にしてみた。また、家族形態別にみる生活障害については介護概論で行うことにする。

基本的な講義構成は以下の通りである。

1. 各機能の人間にとっての意味
2. 各機能障害を持つ人の特性（疾患・主要症状の理解を含む）
3. 各機能障害の日常生活に与える影響
4. 各障害に応じた介護技術

3. 形態別介護技術の単元構成組み立てとその内容

1) 各関連教科との関係および進捗表（表2）

1年間の中で8週間の実習を組み入れ、その実習が効果的に行われるためには、実習に配慮した進捗でなければならない。従来は障害形態別実習として、身体障害者施設・重症心身障害児施設を実習施設としていたが、全員がその施設実習を行うことは不可能である。また、実習目標達成にもばらつきが出てきていた。そこで、障害者施設の実習は形態別介護技術の一環としての見学実習に取り入れることにした。

単元構成を考えるにあたっては第Ⅰ段階実習とのかねあいを考慮し、介護技術はコミュニケーション・ボディメカニクス・移動・運動・社会生活の維持拡大・食事・排泄の介護まで、形態別介護技術は身体の仕組みと高齢者の生理機能・障害の理解・痴呆・運動機

表2 教科目との関連と進捗表

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介護探論	介護とは 介護の対象 介護の方法						介護の展開 介護の課題	介護過程 記録報告 介護保険下の施設と在宅	他職種との連携 介護従事者の健康管理 介護に関する諸課題			
介護技術	介護技術とは コミュニケーション 生活環境 運動・移動・社会生活 安全・高齢福祉 大 ※第1段階実習前に介護技術実習テスト	食事 排泄				清潔 身だしなみ 睡眠・安楽 褥瘡予防	観察とアセスメント ハイタルサイン 薬学予防 医療 対応時 記録 報告		危険時の対応 終末期の介護 在宅介護技術 介護指導 家庭介護教室の実際			
形態別介護技術	身体のしくみと機能と 高齢者の生理 呼吸機能障害 循環機能障害 視覚 運動障害					排泄障害 言語障害 消化・吸収・代謝 障害	重複障害 聴覚障害 精神障害 ※手話・点字 の実際 (各15時間)		視覚障害			
実習指導	介護実習とは 観察のポイント 施設の機能と役割 オリエンテーション					記録の書き方 オリエンテーション	ケアプラン 事例研究 オリエンテーション		事例のまとめと発表			
冬 休 み												
第3段階実習 3週間												
第2段階実習 3週間												
夏 休 み												
在宅実習 1週間												
導入実習 1週間												
※ 施設見学・画 心施設各1日 実学実習												

↑
ホランティフ実習(2日)
※第1段階実習(ホランティフ実習・導入実習・在宅実習)

能障害まで終了して実習に臨むようにした。介護技術との兼合いを考え、各技術の基本的な演習が終了してから機能障害に応じた介護技術を組むように考えた。介護技術や介護概論との重複を避けるため、また効果的な内容にするためにはもっと内容を詰める必要があるが、大まかな組み立ては表2の通りである。

2) 形態別介護技術の単元構成（表3）

特徴的なものとして、介護技術の観察とアセスメントの単元で行っていたバイタルサインを形態別介護技術の呼吸・循環機能との関連の中で行うようにした。また、経管栄養法や胃瘻造設時の介護を消化・吸収・代謝機能の関連の中で行うようにした。単元構成・おもな演習内容・コマ数は表3に示すとおりである。

3) 各単元の目標と学習のねらい

(1) 身体のしくみと機能および高齢者の生理機能と障害の理解（表4）

形態別介護技術の総論的なものとして、自分の身体の名称とそれぞれのおおまかなしくみや働きを講義により理解させる。また、高齢者の生理機能の理解については、介護概論と重なる部分が多い。しかし、学生が高齢者をよりイメージしやすいように、高齢者疑似体験モデルを活用し日常生活動作を体験させる。その体験を通して感想や不自由だった点など具体的に挙げさせ、介護に役立てさせる。

介護概論において自分が考える「障害とは」との題名でレポートを提出させ、それらも参考にしながら障害の定義や福祉サービスを提供する上で大切となる法律など理解させる。障害者手帳の内容や障害者に関連する法律、福祉サービスなどについて各グループに分けグループごと学習させ発表させたのちに、講義で補足する。

(2) 呼吸機能の障害に応じた介護（表5）

人間の生命維持に欠くことのできない呼吸機能の役割を理解させる。また、それが障害されたときの身体的な変化や心理的苦痛を理解させる。さらに、呼吸困難を引き起こしやすい疾患として慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺結核・肺がん・気管支喘息を取り上げを理解させる。

呼吸困難を中心として、精神面の理解から呼吸状態の観察方法・環境整備・食事・入浴・運動・安楽な体位・呼吸訓練・排痰法の介護技術を学ばせる。そして、最近多くみかける在宅酸素療法時の介護として、酸素ボンベの扱いや火気の取り扱い、酸素濃度などの理解をさせる。また、異常発見時の応急的な対応方法や医療関係者への連絡についても理解させる。

表 3 単元構成演習内容

単元項目	コマ数	演習内容	備考
1. 身体のしくみと高齢者の生理機能および障害について	講義・2 演習・1	高齢者疑似体験	
2. 呼吸機能の障害に応じた介護	講義・1	バイタルサイン：呼吸・脈拍・血圧測定	呼吸・循環でバイタルサイン演習1コマとする
3. 循環機能の障害に応じた介護	講義・1 ※演習・1	安楽な体位	
4. 運動機能の障害に応じた介護	講義・6 (特講・1) 演習・4 見学実習・2	身体障害者施設職員による講義 麻痺のある人の移動・移乗動作介助 事例設定による移動・移乗カルテ発表 介護シミュレーション・実習	身体障害者施設・1日実習 (夏休み中)
5. 痴呆を持つ人の介護	講義・3 (特演・2) 演習・4	音楽療法の実際 回想法・リアリティ・オリエンテーションのグループワーク 異常行動などの事例によるロールプレイ	学生も一緒に演習
6. 消化・吸収・代謝機能の障害に応じた介護	講義・2 演習・1	嚥下障害者の体位・嚥下訓練の実際	
7. 排泄機能の障害に応じた介護	講義・3		
8. 視覚・聴覚・言語機能の障害に応じた介護	講義・4 講義・2 (特講・3) 演習・2	※指文字・手話の概要・聴覚障害者の福祉 器機について(手話講師による) ※点字など視覚障害者の福祉器機について (点字講師による) 視覚障害者の講義・グループワーク 言語療法士の講義 目隠し体験・グループワーク	実際に視覚障害者のグループワーク 重症心身障害児施設・1日実習 (夏休み中)
9. 重複障害を持つ人の介護	講義・4 (特講・2)	重症心身障害児施設職員講義	
10. 精神機能の障害に応じた介護	講義・3 講義・2 演習・2 見学実習・2	精神病院婦長による講義 事例による演習	

表 4 身体の仕組みと高齢者の生理機能および障害について

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術 身体機能の観察と アセスメント	介護概論	その他の関連科目
<p>1. 身体各部の名称とそれぞれのおおまかなしくみや機能が理解できる。</p>	<p>① 人間の身体各部の名称と部位を理解させる。 頭部・顔部・背部・腰部・臀部・上肢・下肢 前腕・上腕・大腿・下腿・手掌・手背・足底 足背 ② 身体各部を構成する器官の名称と主な働きを理解させる。 ・呼吸器系 ・循環器系 ・消化器系 ・神経系 ・感覚器系 ・泌尿器系 ・骨、筋肉系</p>	<p>・高齢者類似体験 ADL動作、階段の上り下りなどをする、階段の上り下りなどの体験を通して感想を出し合う</p>	<p>介護の対象の理解 高齢者を取り巻く環境</p>	<p>介護と介護者 「障害とは」自分なりの考えのレポート</p>	<p>・高齢者問題の把握・解決方法 《老人福祉論》 ・老化や障害が人間に与える影響や心理的特性 《老人・障害者心理》 ・障害者の理解 《障害者福祉論》</p>
<p>2. 加齢による身体の変化が理解できる。</p>	<p>① 加齢に伴う各器官の変化を理解させる。 ② 加齢に伴う心理的变化を理解させる。 ③ 高齢者の日常生活における不自由さを学ばせる。</p>				
<p>3. 障害の定義や法的な裏づけが理解できる。</p>	<p>① WHOの定義から「障害とは」を考えさせる。 ② 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法の概要を理解させる。 ③ 障害者に対する福祉サービスについて学ばせる。</p>	<p>・障害者にかかわる法律や身体障害者手帳の内容、福祉サービスについてグループごと調べ発表</p>			
<p>4. 身体障害者手帳の意義と内容が理解できる。</p>	<p>① 障害者手帳の意義を理解させる。 ② 身体障害者障害程度等級表の特徴を理解させる。</p>				

表5 呼吸機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
1. 呼吸機能の仕組みや人間にとっての呼吸の意味が理解できる。	① 呼吸器の仕組みおよび働きを理解させる。 ② 呼吸に影響を与える要因を考えさせる。	・呼吸困難の精神的な苦痛について考える。			
2. 呼吸機能障害を持つ人の特性とその要因および日常生活への影響・支援方法を理解できる。	① 呼吸困難が起こるメカニズムを理解させる。 ② 呼吸困難の成因となる疾病の病態を理解させる。 ・慢性閉塞性肺疾患 ・肺炎 ・肺結核 ・肺癌 ・気管支喘息 ③ 呼吸困難とつう血性心不全の病態の関係を理解させる。 ④ 呼吸機能障害の治療方法の意味を理解させる。 ・薬物療法 ・酸素療法 ・物理療法 ⑤ 呼吸機能障害を持つ人の日常生活における一般的留意点を理解させる。 (ADL・食事・入浴・睡眠・体位・環境など) ⑥ 呼吸機能障害を持つ人の日常生活の介護を学ばせる。	・観察方法、安楽な体位のとり方、呼吸訓練法、排痰法(体位、軽打法)、入浴、食事、環境整備、日常生活など ・呼吸測定法 ・観察方法、環境整備など事例を通して考える。	観察とアセスメント バイタルサイン	医療関係者との連携	
3. 酸素療法をしている人の日常生活の観察方法と異常発見時における関係職種への報告技術が理解できる。	① 在宅酸素療法を行っている人の留意点を理解させる。 (酸素濃度・火気の取り扱い・ボンベ等の取り扱いなど) ② 在宅酸素療法を行っている人の日常生活の介護を学ばせる。 ③ 異常発見時の対応方法を学ばせる。				

表6 循環機能に障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
1. 循環機能の仕組みや人間にとっての意味が理解できる。	① 循環機能の仕組みと働きを理解させる。	・心臓の位置や脈拍の触れる部位の確認 ・VTR：目で見る基礎医学 「循環器系」			
2. 循環障害を持つ人の特性やその要因および日常生活への影響・支援方法について理解できる。	① 循環機能障害を起こす疾病の病態を理解させる。 ・高血圧症 ・狭心症 ・心筋梗塞 ・心不全 ② 循環機能障害の治療方法の意味を理解させる。 ・安静 ・薬物療法 ・食事 ・ペースメーカー ③ 循環機能障害を持つ人の日常生活の介護を学ばせる。 ④ ペースメーカー装着者の日常生活における留意点を理解させる。 ⑤ 異常発見時の対応方法を学ばせる。	・観察、食事、入浴、環境整備など ・観察、脈拍・血圧測定 ・ペースメーカー手帳 ・事例を通して考える	観察とアセスメント バイタルサイン	医療関係者との連携	

(3) 循環機能の障害に応じた介護（表6）

ここでも、呼吸機能障害と同様生命維持に欠くことのできない機能であることを理解させる。高血圧症の病態やうっ血性心不全と呼吸困難との関連などを理解させ、食事・入浴・環境・排泄などの留意点および全身状態の観察方法・脈拍測定・血圧測定の技術を学ばせる。また、ペースメーカー装着者の日常生活上の留意点をペースメーカー手帳などを参考にして理解させる。また、呼吸障害と同様医療的な面と直結しているので異常発見時の応急的対応方法や医療関係者との連携の重要性についても理解させる。

(4) 消化・吸収・代謝機能の障害に応じた介護（表7）

介護技術の食事の単元と関わりを持つ。基本的な人間にとっての食事の意義などについては介護技術でおさえる。消化器機能が障害されることによる身体への影響や肝臓の働きや役割を理解させる。

高齢者になると、原疾患の他に複数の合併症を持ちながら生活していることが多い。そこで、特によく遭遇する糖尿病を代謝障害として取り上げ、疾患の理解と日常生活の留意点および介護を学ばせる。さらに、嚥下困難に対する介護方法として嚥下訓練法を学ばせる。また、経管栄養、胃瘻造設の留意点と介護についても学ばせる。

(5) 排泄機能の障害に応じた介護（表8）

介護技術の排泄の単元と関わりをもつ。オムツへの排泄の精神的なものへの影響は介護技術で学ばせる。ここでは、排泄機能の仕組みとともに排泄機能障害を引き起こす疾患として、尿路感染症や高齢者に多く見られる前立腺肥大症や腎・尿管結石・腎炎・慢性腎不全を取り上げる。また、留置カテーテルやストーマ造設という排泄経路変更による身体的・精神的側面へ影響や日常生活における影響などを理解させ、観察点や特殊技術に伴う留意点を学ばせる。

(6) 運動機能の障害に応じた介護（表9）

この単元は形態別介護技術にとってかなり大きなウエイトを占める。食事・排泄・清潔など介護行為では利用者の運動機能が影響し、すべての動作は運動機能によって左右される。ここではまず、無意識に行っている自分自身の基本動作（寝返る・座る・這う・立つ・歩く）を意識化させ、どのような動きなのかメカニズムを理解させる。運動機能障害を起こす疾患の理解や慢性期におけるリハビリテーションの重要性、ベッド上でできる他動運動・自動運動の実際を行う。運動機能障害であられる麻痺や関節の拘縮・変形のある人の一連の動作（たとえば、片麻痺の人をベッドから起こし、車椅子に乗せ、トイレに行って散歩して戻るなど）の介助方法をそれぞれの障害を設定しVTRや参考書などで学習しグループごと研究させ発表させる。ここでは介護技術での個々の移動の動作が理解させていないと難しいものになる。同一の教員が介護技術も形態別も行

表7 消化・吸収・代謝機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
<p>1. 消化・吸収・代謝機能の仕組みや人間にとつての意味を理解できる。</p> <p>2. 消化・吸収・代謝障害を持つ人の特性やその要因および日常生活への影響・支援方法について理解できる。</p>	<p>学習のねらい</p> <p>① 消化器系の仕組みおよび働きを理解させる。 ② 肝臓の働きを理解させる。</p> <p>① 消化・吸収障害を起こす疾病の病態と治療方法の意味を理解させる。 ・逆流性食道炎 ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・大腸炎 ・大腸癌</p> <p>② 肝臓機能障害を起こす疾病の病態と治療方法の意味を理解させる。 ・肝炎 ・肝硬変</p> <p>③ 糖尿病の病態と治療方法の意味を理解させる。</p> <p>④ 消化・吸収障害を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。(食欲不振・胸やけ・腹痛など)</p> <p>⑤ 肺炎を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。</p> <p>⑥ 嚥下病を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。</p>	<p>・観察(低血糖症状)、腹痛、運動、食事、感染予防 ・実験演習</p> <p>1) 口をあげたまま水を飲む 2) 首を後ろにそらして水を飲む 3) 首を前方に曲げ、水を飲む</p> <p>・経管栄養法・胃腸造設術における必要物品と実際 ・VTR 「こうすれば食べられる」</p>	<p>食事の介護</p> <p>観察</p> <p>感染予防</p> <p>食事の介護 疾患・嚥下の介護 麻痺のある人の食事の介護 嚥下障害のある人の食事の介護</p>		<p>食事療法(家政学)</p>
<p>3. 咀嚼・嚥下・摂食障害のある人への支援方法を理解できる。</p>	<p>① 口腔の役割や咀嚼機能・嚥下機能を理解させる。 ② 嚥下困難・摂食障害のある人の介護を学ばせる。 ③ 経管栄養を行っている人の留意点と介護を学ばせる。 ④ 胃腸造設術を行っている人の留意点と介護を学ばせる。 ⑤ 嚥下訓練の方法を学ばせる。 (から嚥下訓練・7イスマッサージ・頸部筋肉マッサージ)</p>				

表8 排泄機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	その他の関連科目
<p>1. 排泄機能のしくみや尿・便の生成、人間にとっての排泄の意味が理解できる。</p>	<p>① 排泄機能の仕組みと働きを理解させる。 ② 排泄行動と日常生活との関連性を理解させる。</p>	<p>・VTR: 生体のしくみ「腎臓・尿路系」</p>	<p>排泄の介助</p>	
<p>2. 排泄機能障害を持つ人の特性とその要因および日常生活への影響・支援方法が理解できる。</p>	<p>① 排泄機能障害を起こす疾病の病態を理解させる。 ・尿路感染症・前立腺肥大・腎・尿管結石・腎炎・慢性腎不全 ② 排泄機能障害を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。</p>	<p>高齢者の尿失禁 異常徴候発見時の観察 (下痢・嘔吐・脱水・排泄困難)</p>		
<p>3. 人工肛門・留置カテーテル・人工透析をしている人のセルフケアサポート・家族支援が理解できる。</p>	<p>① 尿留置カテーテルを挿入している人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。 ② 膣置透折・血液透析の日常生活における留意点と介護を学ばせる。 ③ ストーマ造設時の日常生活における留意点と介護を学ばせる。 ④ 異常発見時の対応方法を学ばせる。</p>	<p>・尿留置カテーテル必要物品提示 ・VTR ・「ストーマとともに」 ・「ストーマケアテクニック I・II」 ・人工肛門ケアセットの提示 ・観察点: 皮膚の状態 尿・便の性状 食事など</p>	<p>介護指導技術 医療対応時の介護 観察とアセスメント</p>	<p>医療関係者との連携</p>

表9 運動機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
<p>1. 運動機能の仕組みや人間にとつての運動の意味を理解できる。</p> <p>2. 運動機能障害を持つ人の特性やその要因および日常生活への影響・支援方法を理解できる。</p>	<p>学習のねらい</p> <p>① 骨筋肉系のしくみと働きを理解させる。</p> <p>② 運動と脳神経系の関係を理解させる。</p> <p>③ 日常生活の中での基本動作でのからだの働きを理解させる。</p> <p>(寝返り・起き・立つ・進む・歩くなど)</p> <p>④ 運動機能障害を持つ人の特性を理解させる。(身体的・心理的・社会的要因)</p> <p>⑤ 運動機能障害を起こす疾病の病態を理解させる。・骨折・慢性関節リウマチ・脳血管障害・脊髄損傷</p> <p>⑥ 慢性期の運動機能障害の「RICE」アプローチについて学ばせる。</p> <p>⑦ 麻痺(片麻痺・四肢麻痺)や関節の拘縮・変形のある人の生活上の留意点と介護を学ばせる。</p> <p>⑧ 変形・拘縮のある人の日常生活における障害を理解させ、その介護を学ばせる。</p> <p>⑨ 中途の運動機能障害を負った人の精神心理的ケアを理解させる。</p>	<p>基本動作を行いつつどのような身体の動きをしているかを考える。</p> <p>・VTR「背嚔損傷」</p> <p>・VTR「頸髄損傷を負った人の起立」</p> <p>・VTR「ベッド上でできる自動運動」</p> <p>自動運動</p> <p>・杖、歩行器の使い方と介助</p> <p>・特殊車椅子の操作方法</p> <p>・リフトの操作方法と介助方法</p> <p>・麻痺(片麻痺・対麻痺・四肢麻痺)の移動の介助方法</p> <p>・トイレ・浴室・ベッドなど</p> <p>・VTR「背嚔損傷・片麻痺の「リフト」</p> <p>・VTR「グループワークによる麻痺のある場合の移動の介助方法を一通りの動作を話し合せて考えさせ、発表させる。</p>	<p>運動・移動</p> <p>日常生活の維持拡大</p> <p>排泄</p> <p>清潔</p>	<p>障害を持つ人の生活</p> <p>障害者と家族・地域との関係</p>	<p>障害を持つ人の住環境</p> <p>《家政学》</p> <p>RICEアプローチの目的など</p> <p>《RICEアプローチ論》</p> <p>障害の受容過程など</p> <p>《障害者の心理》</p>
<p>3. 應用性症候群について理解できる。</p>	<p>① 應用性症候群の発生機序と状態を理解させる。(関節拘縮・筋萎縮・筋力低下・筋創・筋性低血圧・心肺機能低下・知的・精神活動の低下)</p> <p>② 應用性症候群の予防方法を学ばせる。</p> <p>③ 筋創の発生要因や好発部位を理解させる。</p> <p>④ 寝たきりの予防方法を学ばせる。</p> <p>⑤ 日常生活の目的や評価内容を理解させる。</p>	<p>寝たきり状態させ、感覚やなだまきり状態などどんな身体を動かしたかまた、安楽にすための工夫をしレポートさせ</p> <p>・寝たきり予防・安楽につなげるための工夫をしレポートさせ</p> <p>・実習での受け持ち利用者や自分の周りにいる高齢者にADL評価をし</p> <p>・介護福祉学実習による、説明や体験</p>	<p>安楽な体位</p> <p>皮膚の観察と7ポイント</p> <p>寝たきり状態の人の介護</p> <p>寝たきり予防</p> <p>・食事、排泄、清潔、移動</p> <p>更衣、</p> <p>環境整備</p>	<p>寝たきり老人の突然</p> <p>寝たきり予防</p> <p>寝たきりの判定基準など</p>	<p>日常生活動作など</p> <p>《RICEアプローチ論》</p>
<p>6. 運動機能障害を持つ人にとっての福祉器械や用具の必要性や使用方法を理解できる。</p>	<p>① 運動機能障害を補う福祉器械や福祉用具の目的や種類を理解させる。</p> <p>② 福祉器械や福祉用具の使用方法を学ばせる。</p>	<p>福祉用具の活用</p>	<p>福祉用具の活用</p>	<p>福祉用具について</p> <p>《RICEアプローチ論》</p>	<p>福祉用具について</p> <p>《RICEアプローチ論》</p>

うので展開がスムーズにできると考えている。

運動機能障害と廃用症候群・寝たきりとの関係や寝たきり予防の方法、生活リハビリの重要性も理解させる。この部分は、介護概論とも関連が深いので概論担当者との連携も重要になる。寝たきりは、体験を通してどのような身体的・精神的な苦痛があったかを出させ、どのような介護が必要になるのかを考えせる。また、福祉器機や福祉用具は学内のものでは限りがあるので、介護センターに行き実際のものを使って体験させ、対象に合わせた活用方法を考えさせる。

(7) 視覚・聴覚・言語機能の障害に応じた介護（表10）

介護技術でのコミュニケーション技術や入学直後の研修での人間関係のグループワークなどの体験を生かす。目隠し体験や言葉を交わさない、トーキングエイドなどでのコミュニケーションを体験により、限られたコミュニケーション手段での信頼関係の成立の過程を学ばせる。体験を通して障害のある人の気持ちにより近づけるようにする。また、視覚障害者の特別講義や言語療法士の特別講義や失語症のVTRをとりいれて、介護をより深く考えられるようにする。

(8) 痴呆を持つ人の介護（表11）

痴呆症の病態を理解させるとともに、評価スケールの活用方法や痴呆の前駆症状の観察ポイントなどを学ばせる。さまざまな問題行動が本人や家族の日常生活に及ぼす影響や家族の身体的・精神的負担をVTRや新聞・雑誌記事などを用いてなるべく多くの具体的事例を提示し理解させる。痴呆性老人との対応技術は、できるだけ学生に痴呆症のイメージをさせて、事例によるロールプレイで体験させる。また、対応技術として、回想法、リアリティオリエンテーションの活用方法をグループワークなどを通して学ばせる。

(9) 精神機能の障害に応じた介護（表12）

精神障害の病態や治療方法の理解とともに、精神障害者を正しく理解するために精神病院の半日実習を行い、実際に精神障害者とかわりを持たせる。また、精神障害者の置かれている現状や精神障害者とのかわり方については、臨床現場の婦長さんに事例を出してもらい対応方法を学ばせる。

(10) 重複障害を持つ人の介護（表13）

重症心身障害児施設の日常生活場面の見学実習と重症心身障害児施設の職員の特別講義をいれて、重複障害を持つ人の理解を深める。重症心身障害児・者は、重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複してもつ人であるので脳性麻痺・てんかん・知的障害の理解をこの単元に入れ学ばせる。

表10 視覚機能・聴覚機能・言語機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術演習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
<p><視覚障害></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚機能のしくみや人間にとっての意味を理解できる。 2. 視覚障害を持つ人の特性や視覚障害を起す要因および日常生活に及ぼす影響・支援方法が理解できる。 3. 福祉機器や福祉用具について理解できる。 	<p>学習のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 視覚機能のしくみと働きを理解させる。 ② 視覚障害の病態を理解させる。(白内障・視力障害・視野障害) ③ 視力障害を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。(情報獲得の困難性・社会とのかかわりの阻害など) ④ 中途失明者の精神心理的变化を理解させる。(「中途失明による20項目の喪失」など) ⑤ 視覚障害に関する福祉用具・器械の目的と種類を理解させる。(点字器具・盲人用時計・拡大読書器・点字図書など) 	<p>形態別介護技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サングラスや目隠しをしての段内の移動やトイ動作などを体験する。 ・ VTR「視覚障害者の読書法」 ・ かたへつ演習 ・ 点字 ・ 視覚障害者の特別講義 ・ 講演者の室内から「へつ」体験 	<p>介護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視力障害を持つ人への食事の介助方法 ・ コミュニケーション 	<p>介護概論</p>	<p>その他の関連科目</p> <p><フロンティアメンキヤブ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学直後の研修での友人同士での目隠し体験によるお互いの信頼関係成立の過程を学ぶ。 ・ 点字の実験 <p><点字></p>
<p><聴覚障害></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚機能のしくみや人間にとっての意味を理解できる。 2. 聴覚障害を持つ人の特性や聴覚障害を起す要因および日常生活に及ぼす影響・支援方法が理解できる。 3. 福祉機器や福祉用具について理解できる。 	<p>学習のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 聴覚機能のしくみと働きを理解させる。 ② 聴覚障害の病態を理解させる。(難聴の種類と病態・聴覚障害の原因疾患) ③ 聴覚障害を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。(コミュニケーション手段の問題・社会とのかかわり阻害など) ④ 中途失聴者の精神心理的变化を理解させる。 <p>① 聴覚障害に関する福祉機器や福祉用具の目的と種類を理解させる。(もしもしフォン・補聴器など)</p>	<p>形態別介護技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗換のみせ「スピー」のみ、談話のみで半日コミュニケーション体験する。 ・ 上記の手段での介護体験(更衣・体位変換など) ・ 指文字・手話 ・ 補聴器を実験に使用してどのように聞こえるのか体験する。 	<p>介護技術</p>	<p>介護概論</p>	<p>その他の関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話の実験 <p><手話></p>
<p><言語障害></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語機能のしくみや人間にとっての言葉の意味を理解できる。 2. 言語障害を持つ人の特性やその要因および日常生活に及ぼす影響・その支援方法が理解できる。 	<p>学習のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 言語機能のしくみと働きを理解させる。 ② 言語障害の病態を理解させる。(失語症・麻痺性言語障害) ③ 言語障害を持つ人の日常生活における留意点と介護を学ばせる。(「キングエイト・コミュニケーション・文字盤・五十音盤」など) ④ 失語症の人の精神心理的特性を理解させる。 	<p>形態別介護技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VTR「失語症とは」「仲間と未だグループワークと地域ケア」 ・ 言語療法士の特別講義 ・ トーキングエイトや文字盤・五十音盤などを用いて半日会話を行う。 ・ 上記のもので介護体験 	<p>介護技術</p>	<p>介護概論</p>	<p>その他の関連科目</p>

表11 痴呆を持つ人の介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術講習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
<p>1. 痴呆性老人の実態や概念、判定基準などの評価について理解できる。</p> <p>2. 痴呆の成因・生活行動上の問題や日常生活への影響や生活の援助方法について理解できる。</p> <p>3. 痴呆性老人との親ましい対応の方法を理解でき、家族の負担を理解し、支援システムの利用方法を理解できる。</p>	<p>学習のねらい</p> <p>①痴呆の概念と判定基準について理解させる。</p> <p>②痴呆性老人の現状と今後の課題について考えさせる。</p> <p>① 痴呆の病態を理解させる。</p> <p>・脳血管性痴呆 ・アルツハイマー型痴呆</p> <p>② 痴呆の前駆症状を理解させ、援助方法を考えさせる。</p> <p>③ 痴呆性老人に対する介護の原則を学ばせる。</p> <p>④ 痴呆性老人の問題行動に対する援助方法を学ばせる。</p> <p>記憶障害、興奮躁動、不安・焦燥感、徘徊、興奮・攻撃的行動、夜間せん妄、異食、拒否</p> <p>⑤ 痴呆性老人の日常生活における介護を学ばせる。</p> <p>観察・環境整備・安全・食事・排泄・清潔・洗濯・衣類の着脱</p> <p>① 痴呆性老人の対応技術を理解させ、その技術を学ばせる。</p> <p>(回想法・リアリティ/エイジェンション・現実の強化など)</p> <p>① 痴呆性老人を抱える家族に対する支援方法と介護者の役割を理解させる。</p>	<p>・詳細スケジュールの提示</p> <p>・改訂東洋川式痴呆認知症評価スケール(HDS-R)</p> <p>・国立精神衛生研究所痴呆スクリーニングテスト</p> <p>・痴呆性老人の日常生活自立程度判定基準など</p> <p>・雑誌、新聞記事などにより各自調べさせる。</p> <p>・VTR「回想法」</p> <p>・ロールプレイ(4～5の事例でグループごとに分かれロールプレイ)</p> <p>・自分の気持ち、相手に対する気持ち、望ましいコミュニケーションについて意見交換</p> <p>・VTR「痴呆性老人」や新聞記事・雑誌記事を読み家族の負担の大きさや地域での支援方法などを話し合う。</p>	<p>観察</p> <p>食事・清潔・排泄・環境整備の介助</p> <p>対人援助の方法 ケアワーク 地域社会における介護</p>	<p>介護概論</p> <p>社会福祉 II (社会福祉援助技術) 《幼児教育課程必修》</p>	<p>その他の関連科目</p> <p>《老人福祉論》</p>

表12 精神機能の障害に応じた介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術講習	介護技術	介護概論	その他の関連科目
<p>1. 精神の健康や人間に与える心や心を病むことの意味を理解できる。</p> <p>2. 精神障害の種類や精神障害をもつ人の日常生活への影響について理解できる。</p> <p>3. 精神障害のある人への対応方法や医療保健機関との連携が理解できる。</p>	<p>学習のねらい</p> <p>①精神の健康や心を病むとはどういうことか考えさせる。</p> <p>②発達段階での危篤的な状況の課題について理解させる。</p> <p>①精神障害者の置かれている現状を理解させる。</p> <p>②精神障害の病態と治療方法の意味を理解させる。</p> <p>・精神分裂病 ・躁鬱病 ・老年期うつ病</p> <p>③精神障害者の生活上の特性を理解させる。</p> <p>① 精神障害者へのかかわり方について学ばせる。</p> <p>② 精神障害者と地域とのかかわりについて理解させる。</p> <p>③ 地域の理解や保健医療関係者との連携方法について理解させる。</p>	<p>・自分たちのこれまでの生活の中で悩んだりしたときの気持ちなどを思い出し、困ったときどのように解決してきたかなど話し合う。</p> <p>・精神病院見学実習(平日)</p> <p>・事例を通してかかわり方の理解を深める。</p> <p>・症状に対しての、ロールプレイ(教員間で)</p>	<p>コミュニケーション</p> <p>対人援助の方法 地域社会における介護</p>	<p>介護概論</p> <p>精神保健 (幼児教育課程必修)</p> <p>社会福祉 II (社会福祉援助技術) 《幼児教育課程必修》</p>	<p>その他の関連科目</p> <p>《老人福祉論》</p>

表13 重複障害を持つ人の介護

単元目標	学習のねらい	形態別介護技術講習	介護技術	介護総括	その他の関連科目
<p>1. 重症心身障害児・者の定義や重複障害について理解できる。</p> <p>2. 脳性麻痺の定義・分類や生活支援方法を理解できる。</p> <p>3. てんかん発作の特徴・留意点や生活支援の方法が理解できる。</p> <p>4. 知的機能障害の意味・行動の特徴・日常生活への影響や生活支援の方法を理解できる。</p> <p>5. 医療関係者・教育機関や教育関係者との連携の重要性を理解する。</p>	<p>学習のねらい</p> <p>①重複障害の原因および特徴やおもな障害について理解させる。 ・運動・姿勢維持障害 ・呼吸障害 ・摂食障害 ・排泄障害 ・コミュニケーション障害 ②重複障害者の健康および日常生活における留意点と介護を学ばせる。 ・食事 ・排泄 ・身だしなみ ・保清 ・安全 ・生活の拡大 ・コミュニケーション ① 脳性麻痺の病態を理解させる。 ② 脳性麻痺児・者の日常生活における留意点と介護を学ばせる。 ① てんかんの病態を理解させる。 ② てんかんを持つ人の日常生活上の留意点と介護を学ばせる。 (てんかん発作時の観察・対応方法など) ① 知的障害者の定義と原因を理解させる。 ② 知的障害者の各発達段階におけるの生活の特徴と介護を学ばせる。 ① 他職種との連携の重要性を理解させる。 (理学療法士・作業療法士・言語療法士・医師・看護師・教師など)</p>	<p>・重症心身障害児施設見学実習 ・重症心身障害児施設指導者特別講義 ・VTR: 食事べられたよ「摂食障害の対応」</p>	<p>観察とアセスメント ハイカブイン</p> <p>コミュニケーション 食事の介助 排泄の介助 清潔の介助 環境整備 異常発現時の対応</p>	<p>介護総括</p> <p>障害児福祉施設における介護 障害者福祉施設における介護</p> <p>医療関係者との連携</p>	<p>その他の関連科目</p> <p>障害児保育 (幼児教育課程必修)</p> <p>作業療法・理学療法 <<リハビリテーション論>></p>

4. まとめ

形態別介護技術を機能形態別に構成し内容を明らかにすることにより、特に関連の深い介護技術や介護概論の内容も整理されてきた。機能形態別の項目立てをし、身体機能の基礎理解と介護の現場で遭遇することが多い疾患を取り上げた。各疾患の理解をふまえた上で、日常生活における留意点と介護方法につなげていくことは、知識の統合につながり効果的であると考える。さらに、形態別介護技術として演習内容を明確にし整理できたことは、単に知識の修得で終わることなくより実践的となり意義深いものになった。形態別介護技術として体験学習を多く取り入れ、障害の持つ人の気持ちにより近づけ対応技術を習得できればと考える。現段階ではまだ、実際に形態別介護技術として展開していないので問題点はわからない。しかし、各単元での演習内容を十分消化するようにして、他の教科や介護演習等につなげていければと考えている。各単元での学生の学びや各演習効果についてもこれから細かく検討していきたい。介護技術と形態別介護技術は、ほとんどの単元を同一の教員が講義を担当しているので介護技術との重複や介護技術からの応用・発展などにはつなげやすい。そこで形態別介護技術をひとつの応用技術として確立した。

介護の仕事は人間が人間の生活に関わって、生活を自立支援へと導いていくものである。知識を獲得し、学内での演習や施設での実習の積み重ねにより技能を習得する。そしてさらに発展させて、学生自身の行動や態度の成長につながっていけばと考えている。そのためには、幼児教育課程の教科目さらに福祉専攻の教科目全体の連携と統合が図られて行かなければならない。一年間という限られた期間での教育は、今後もより一層の授業内容の検討が必要である。そのひとつの足がかりとして形態別介護技術を検討してみた。今後は介護概論・実習指導でも検討を進めていきたい。

参考文献

- 1) 高崎絹子他編集：最新介護福祉全書15 介護技術 メヂカルフレンド社 1999
- 2) 高崎絹子他編集：最新介護福祉全書16 障害形態別介護技術 メヂカルフレンド社 1999
- 3) 高崎絹子他編集：最新介護福祉全書14 介護概論 メヂカルフレンド社 1999
- 4) 福祉士養成講座編集委員会編集：介護福祉士養成講座14 障害形態別介護技術 中央法規出版 1997
- 5) 福祉士養成講座編集委員会編集：介護福祉士養成講座13 介護技術 中央法規出版 1997
- 6) 岡山県介護福祉教育研究会編：介護福祉実習ノートⅢ 教師用指導案集 1998
- 7) 岡山県介護福祉教育研究会編：介護福祉実習ノートⅡ 利用者の特性に応じた介護技術 1998

- 8) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 3 呼吸機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 9) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 4 循環機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 10) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 5 消化・吸収・代謝機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 11) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 6 排泄（腎・膀胱）機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 12) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 7 感覚・認知機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 13) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 8 運動機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 14) 黒田裕子監修：臨床看護学セミナー 9 生体防御機能障害をもつ人の看護
メヂカルフレンド社 1999
- 15) 早坂泰次郎他編集：系統看護学講座 別巻12 精神保健 医学書院 1997
- 16) 外口玉子他：系統看護学講座 別巻13 精神疾患患者の看護 医学書院 1997